

雛のわかれ

東くめ子

錦をよそふ

わが友と

うちならびつゝ

眺むれば

こがねちりばひ

此とのに

桃のはなさへ

匂ふなり

小さき姫が

うちよりて

紅葉なす手に

ものそなへ

かしづく様を

うつくしと

見るも今霄を

かぎりとは

また明日よりは

一年を

いぶせきはこに

籠められて

ひとり淋しく

すこすへき

あはれはかなの

運命かな

折にふれて

和歌子

鳥羽玉のやみをやぶりて走りゆく車のあたり六の花ちる

見渡せば小金か原もしろかねにうもれてあげぬ冬の明ほの

六の花ちりしなごりか山のかひはかのこまたらにけふもそめたり

鳥一羽ねくらにいそく冬枯の森のあなたに夕日かややく
冬枯の雑木しつかにうち渡す原野の末に夕日かややく
天も地も心しつかに暮れてゆく小金原に月かげほそし
つくはねはそれとも見えす森も川もいつしか暮れぬ常陸野の
原白雪のふりつむ野邊に我汽車の煙はしりて火花ちるなり

